



## 豊かな未来を創る「志」と「知」

小松市教育長 石黒 和彦

1961年に人類初の宇宙飛行士ガガーリンが「地球は青かった」と世界の人々にメッセージを送り、1969年には人類が初めて月面に立つなど1960年代の世界は工業化が進展し、科学が著しく発展する時代でした。以来、科学技術は発展し、社会の様相も大きく変化し続けています。しかし、その一方で、地球環境の劣化、エネルギー問題など地球規模での課題が顕在化していることも事実です。また、この2年間、コロナ禍により、私たちはVUCAと呼ばれる不確実で複雑な時代を身をもって経験しています。今後も社会はどんどん複雑さを増すと予測されており、そのような状況に対応するには、新しい情報を常に収集する「主体性」と「対話的」に問題解決を行っていく姿勢、そして、ものごとの本質を見抜く「深く考える力」が必要だということです。

2020年度から全面実施された学習指導要領には、「生きる力 学びの、その先へ」という表題がついています。永い間、「知識・技能の習得」を重視してきた学校教育が、学んだことを自在に活用し、人生や社会に生かそうとする力を育む教育にシフトしていることが解ります。そして、そのような教育ビジョンを実現する手立ての一つが“GIGAスクール”です。新しい学習指導要領の願い実現のために、タブレットを黒板や鉛筆の“置き換え”で済ませるのではなく、デジタルだからこそできる授業に切り替えていくことが重要です。

また、世界中でサステナビリティ（持続可能性）が重視され、個人の幸せと社会全体の幸福の両立を実現するために、一人一人が社会のために何をすべきか考え、実行することが求められています。

20年後、30年後の社会がどうなっていくか、また、人々の価値観がどう変化していくか予想がつかない中で、それに対応できる教育が求められています。学校教育、社会教育、家庭教育に携わる大人がそれぞれの教育の在り方についてしっかりと考え、連携していくことがとても重要なことだと思います。その結果として、子どもたちが豊かな未来を創る「志」と「知」を身につけていくことができると思うからです。

